

平成 18 年度 K. C A T 活動報告～連携・交流によるまちの活性化を目指して～

【検討の背景】 広域交通網の整備／市民生活レベルでの移動の広域化／人口減少による交流人口の重要性向上／地方の活力向上の必要性

【検討の目的】 他の都市や地域との連携・交流による、金沢の活力向上戦略を考える

北陸都市連携

【テーマ】 fit 311万人のパワーがつくる快適居住交流圏

各地域の独自性を尊重しつつ、効果を発揮できるジャンルで連携

世界や全国と連携・交流できるように、北陸全体のポテンシャルを高める

FITの中心として、より一層金沢が輝く

【提案内容】

◆FIT広域連携センター

- ・3県の出資による母体組織の結成
- ・連携ジャンルの洗い出し、各種提案や調整、収支チェック、助成金の配分等

◆交通FIT：地域共通定期券「FITパス」

- ・交通共同体を結成、すべての公共交通で使える定期券を発行（電車、バス、カーシェア、サイクルシェア）⇒公共交通の利便性向上、域内交流の活発化
- ・パスは多様なニーズに応じて発行（例、通勤・通学用、平日用、休日用、観光用）

◆スポーツFIT：総合型地域スポーツFIT

- ・3県共同でクラブチームからトップレベルチームまでを育成、トップチームと各段階のチームが連携⇒地域全体でスポーツを底上げ
- ・3県をホームとしたプロスポーツチーム（例、プロ野球セ・リーグの球団等）、交通券付きチケットで他県での試合も同額で観戦⇒経済効果、域内交流の活発化、連帯意識の醸成

◆健康FIT：FIT医療連携システム

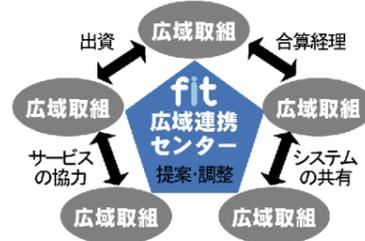
- ・県境を越えた救急活動、救急連絡体制の集約化⇒機能向上、コスト削減
- ・高度医療分野の集中的・計画的配置、病院コーディネート（名医、空き情報、設備等）、高度医療設備の共有、地域への医院の配置
- ・グルメディカルツアー（健康チェック、漢方、健康食、温泉湯治）⇒世界からも人を呼ぶ

◆発信FIT：広報連携「FITプロモーション」

- ・3県のアンテナショップの共同出店（3県の魅力を組み合わせた商品の提案）、海外での見本市への出展・広告、中小企業の共同プロモーションのコーディネート、観光業者への宣伝
- ・企業誘致のコーディネート（北陸全体の工業団地等をPRし、希望条件に合う場所をコーディネートする）⇒まず北陸に関心を持ってもらうところから始める

◆教育FIT：FIT教育システム

- ・3県の高校で特殊専門教育を分担配置（例、演劇、アニメ）⇒全国から生徒を集める
- ・大学の統合「北陸総合大学」（単位互換、研究室交流、通学舎の選択制）



※第8回K. CATフォーラムで議論
「北陸都市連携」と「広域都市連携」
連携と交流による金沢まちづくり戦略を考える

北陸連携組が
高い支持を
獲得

広域都市連携

【テーマ】 日本の玄関口・金沢 ～ひと・もの・ところを創り育てる、金沢のまちづくり～

金沢の魅力を最大限に活かして全国・世界からの交流人口を増やす

金沢をさらに元気に金沢から世界を元気に

【提案内容】

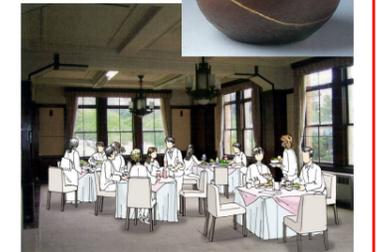
◆金箔を活かしたまちづくり「黄金の街・金沢」

- ・世界金箔サミットの開催（世界の金箔職人が集まり3か月滞在でのづくり、市民参画で金箔体験、金箔の価値の再認識）⇒金箔を通じて絆を強化
- ・まちなかに金箔を取り入れて黄金の街をアピール（例、もてなしドームの鼓門・テンションリング、情報案内板、21世紀美術館、浅野川大橋）
- ・「金継ぎ」の陶器リペアポット設置⇒金箔・漆職人の技を活かす、金箔の付加価値創出、もったいない心の醸成



◆食文化を活かしたまちづくり 金沢の食＝五重の楽しみ（食材、味、器、場、心）

- ・じわもん料理バトルの開催（海外の姉妹都市と持ち回りで開催、開催地のじわもんを使った料理対決、料理人の競演）⇒各国の食文化の発展
- ・食の職人をプロデュース（食のエキスパートを志す人を受け入れ、五重を学び、全国・世界へ輩出）⇒食文化の街・金沢のブランド化
- ・旧県庁知事室を活用した「じわもんレストラン」（五重の楽しみを味わう場づくり）⇒まちなかの活性化、観光客のおもてなし、食文化を通じたまちなかの交流人口増大



◆平成の北前船で本物の日本に出会う

- ・平成の北前船＝金沢港を発着拠点、各地の歴史・伝統・文化をゆっくり堪能、団塊世代・海外富裕層を対象、最新型旅客船
- ⇒金沢港を新たな玄関口、世界の異文化交流拠点に

<ツアー例>

- ・世界遺産を巡る旅（船内で世界遺産の自然と文化を学ぶ、寄港地で歴史・伝統・文化を堪能）
- ・Japan（＝漆器）・China（＝陶磁器）を巡る旅（船内で漆芸・陶芸教室、西まわり&東まわりルート）



【今後に向けての課題】 ●日常と非日常における連携の両方を活かした金沢の活性化
●金沢のブランド化のための魅力の発信の方法